



発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医実務研修センター
TEL (093)691-7171
FAX (093)692-4590
発行責任者：地方会長 大久保利晃

(題字 倉恒匡徳筆)

特別寄稿

組織について考える

日本産業衛生学会理事長 藤木 幸雄
(松下産業衛生科学センター所長)

昭和58年に大阪で開催された日本産業衛生学会(学会長大阪大学医学部 後藤稔教授)のシンポジウム「労働と人間」に私もシンポジストに選ばれた。その時に九大の三隅教授と一緒にいただいたが、先生の著作の中にP、PとM、m、Pは利益追求型、Pはそれのない人、Mは組織維持型、mはそれのできない人である。先生は倒産した企業の従業員から企業の上層部の性格を調査されての結論がPerformanceとMaintenance型の分析であった。

成功している企業は社長がPで、副社長がM、あるいは社長がPとMの両方を兼ね備えている場合であるとのことであった。ところがPである社長はMを嫌う。従って、副

社長をPにする。こうした場合は社員が疲弊して、会社が倒産する。最悪は上層部がPばかりの場合である。私には非常に参考になった。後藤先生はこのシンポには大いなる熱意を持って打ち込んでおられた。頻りに飲みながらの会合も行われた。国家を論じている明治時代の政治家になったような気分であった。Labor, job, workの違いを楽しく語り合った。

九州地方会からの原稿依頼にあたり、福岡出身の敬虔なクリスチャンであり、私の道しるべを下さった故後藤教授のお人柄を偲んで一文をしたためた次第である。



地方会長に就任して

日本産業衛生学会九州地方会長 大久保 利晃
(産業医科大学副学長)

本年4月から不肖私が九州地方会長をお引き受けすることになりました。私が産業医学の世界に入った頃の地方会長といえば、野村、倉恒、石西先生方のように、既に大教授でおられた大先輩方のことであり、まさか私がその任に当たるなどとは思ってもいなかったことです。しかし、その後少なくとも時だけは確実に過ぎ、確かに年齢だけは上記の先生方が地方会長に就任されたときと同じか、むしろ今の私の方が上になってしまっていることに気がついて愕然としております。今の若手会員が、私が感じたと同じ畏敬の念を感じていただいているとは到底思えませんが、就任した以上は一生懸命頑張りますので、会員各位のご支援を宜しく御願いたします。

さて、最近の九州地方会における特徴の一つとして、福岡県への会員の偏在があげられます。この傾向は年々強まり、地方会運営上も何らかの工夫が必要です。地方会開催は地方会にとって重要な事業です。これまで会員数を考慮して、福岡での開催を増やしてきましたが、本当にこの方がよいか疑問に思っております。

また、最近では医師会の先生方を中心に産業保健活動との連携をはかることも重要課題になりつつあります。産業保健推進センターや地域産業保健センターへの寄与などを含めて、今後真剣に取り組んで行かねばならないと感じております。会員の皆様から建設的な提案が多数もたらされるよう期待しております。



大分産業保健推進センターの発足に当たって

大分産業保健推進センター所長 日隈哲男

近年労働力人口に占める中高年齢労働者の割合の増加、技術革新に伴う作業態様の変化等により、中高年齢労働者を中心として成人病に罹患する者の割合が増加すると共に就業に伴うストレス等の問題が生じてきている。停滞する不況や、リストラのため職場でのメンタルヘルスの問題が重要になり、さらに進んでライフスタイルのことを問題として取り上げている現況であり、都市部、農村部を問わず事業所で働く人々の健康と快適職場の確立を目標とし、50人以上の事業場で働く人や、50人以下の事業場で働く労働者に対する産業保健サービスを考えるとき、大分では産業保健推進センターの開設が平成11年6月18日にあり、産業医をはじめとする産業保健関係者の活

動が重要な役割を担うようになってまいりましたのでその中核としての役割を果たす覚悟で取り組んでいます。

大分産業保健推進センターとしては、窓口相談、実地相談とともに、各種の産業保健に関する情報の提供と、専門かつ実践的な研修を実施し、調査研究を行なうことにしています。

大分県は山岳地が多く、そこで働く農作業者の問題も多く、また新産業都市として新日鉄をはじめ、昭和電工、日本石油、東芝工場、ソニー工場など大企業ほどメンタルヘルスの問題を多く抱えています。県南部には優秀な豊後土工といわれている働き手が、じん肺問題を持ち込んでいることも大きな歴史的特徴と考えられます。

平成11年度日本産業衛生学会九州地方会学会報告

熊本大学医学部衛生学 教授 上田 厚

平成11年度日本産業衛生学会九州地方会学会は、6月11日(金)/12日(土)の2日にわたり、熊本大学医学部キャンパスの施設を会場として開催された。本会を主催させていただくにあたり、新しい世紀を間近にひかえ、私たちの生活そのものが問い直されつつある時代の中で、働く人々を中心とした地域のみなの生活と健康と環境の向上に寄与する新しい理念と技術を作り出す何かの手がかりが提供できればという思いを込めて、かつ、出来るだけ無駄なエネルギーを使わない手作りの学会を趣旨として、企画準備を進めた。

本学会の学術講演については、特別講演、指定講演、招待講演、一般講演など、出来るだけ多彩な内容や形式の発表が組めるよう工夫した。

特別講演は熊本労災病院呼吸器内科部長 伊藤清隆先生に「じん肺の新しいアプローチーい草作業者のじん肺についてー」のテーマをお願いした。熊本県の重要作物であるい草栽培従事者のじん肺の本態的究明を縦糸にしてじん肺に対する新たな産業医学的アプローチについて明快かつ高度な内容の講演をいただき、会場から予定時間を超過して多くの質問が出されるなど充実した講演会となった。

一方、一般演題とともに、これからの産業保健の基本に関わる問題について、それぞれの講演者の深い経験に基づいて自由にその理念と方向性を語ってもらおうという趣旨の指定講演を企画した。今回は、友国先生：化学的有害因子暴露に対するリスク評価の試み、永田先生：職場のメンタルヘルスの取り組みについて、上田：農村保健と産業保

健の接点、福光先生：産業看護職からみた産業保健の問題点とこれからの展開、三角先生：産業保健推進センターの役割と新しい産業保健の展開、と5人の演者をお願いし、ユニークな視点からそれぞれの課題について基盤となる理念を出していただいた。一般演題については、実験的研究、産業疫学的研究、現場での産業保健活動の試みと評価について19題が出され、いずれも目的意識の明解な、現場に根ざした研究成果が発表された。これらの学術発表については、出来るだけ女性に座長をお願いしようということも我々の企画の一つであり、全題とはいかなかったが、ある程度実現できた。産業保健の領域でも、ますます女性の役割が大きくなって行くことは時代の流れであり、学術発表だけでなく、学会行事のまとめ役や世話役、推進役としても女性の力を大いに期待したいところである。

地方会におけるもう一つに懸案として、自由集会の開催があげられるが、今回、「産業衛生技術部会準備会」(世話人 田中勇武)、「働く人が自分の健康を考えるたびにー産業看護職の支援とはー」(福光ミチ子、滝川恵子)、「バイオマーカー研究会ー最近のバイオマーカーの話ー」(市場正良、加藤高彦)、「産業保健サービス/活動の未来を考える」(上田厚、酒井一博、井谷 徹)の4つを設けることが出来た。それぞれ活発な今後につながる討議が行われた。

さらに、学会の付帯行事として、日本産業衛生学会疲労研究会との共催で「第5回チェックリスト研修会」を実施した。本学会前日(10日)の実施であったが、約30名の学会員の参加を得、対象職場の全面的な協力を得て、実のある

研修会となった。

本学会の参加者は110名、懇親会参加者も身内を含めて50名を超えるという盛況であった。もとより学会の形やあり方は様々で、本学会の内容についてはいろいろご意見もあるものと思われるが、私たちとしては精一杯の成果をあげることに出来た学会であった。本学会が成功裏に終了したことについては、参加者それぞれが本学会を盛り上げ

ていただいた賜物であると、我々一同おいにありがたく思っている次第である。

なお、本学会の開催をきっかけに熊本大学医学部衛生学講座のホームページを開設いたしました。何かご利用ください。ホームページアドレスは

<http://www.medic.kumamoto-u.ac.jp/dept/hygiene/eisei/index.html>

第12回 日韓産業保健学術集談会に参加して

産業医科大学教授 東 敏 昭

去る平成11年5月21日-22日、岡山大学医学部のキャンパスにて、青山英康岡山大学教授を第12回開催会長として表記の会が開催されました。今回は、日本80名、韓国69名で、2日間の特別講演を含む演題34、本会前夜の交流会、青年部学術交流会(10演題)を通じて、活発な意見交換と相互理解が進められました。中国からは7名の参加者が予定されていましたが渡航手続きの関係から出席できなかったことが残念でした。

本集談会は1984年に日本の京都工場保健会と韓国の大韓保健協会が世話役となって第一回が開催されました。以後、アジア労働衛生会議のある年を除き、両国で交替に開催され、回を追うごとに充実の度を加え、今日にいたっております。会の目的として、単に実務・学術の知見の交換に留まらず、相互の理解と親睦をあげ、現在の参加者は、両国の労働衛生機関や大学、研究機構で産業保健の実務・研究・教育に従事する医師、保健看護職、技術職、運営者などです。

本会の開催中に行われた運営委員会で、次回以降、日本と韓国を主体とし中国から参加者をゲストとして招待してきた本学術集談会を、この3国による運営とし、名称も「北東アジア産業保健学術集談会」として発展させることが提案され議決されました。中国側も賛同しており、21世紀(2001)新たなスタート第1回は中国(北京市)での開催が予定されています。日本側の運営組織についても、本会の発展に多大な貢献をされた館正知岐阜大学名誉教授から大久保利晃産業医科大学副学長に代表が引き継がれました。また、事務局も京都工場保健会の乾修然副会長から筆者にバトンタッチということになりましたが、責任の重さを実感しております。韓国側も同じように世代交代が行われ、これに伴い次の世代への橋渡しを目指して設けられた青年部も、フォーマルには今回は最後の集会ということになりました。

韓国、中国にとって九州は地理的にも最も近い日本です。地方会会員の方々のご参加、ご支援をお願いします。

これからの諸行事予定

第27回有機溶剤中毒研究会案内

会 期：平成11年10月8日(金)、9日(土)

(8日昼から9日昼まで)

会 場：白雲荘 〒904-0411 沖縄県恩納村恩納7542

Tel:098-966-8021 沖縄本島西海岸)

事務局：琉球大学医学部医学科保健医学講座

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207

Tel:098-895-3331 内線2290 Fax:098-895-3529、

e-mail: arizumi@med.u-ryukyu.ac.jp

世話人：有 泉 誠

主 催：日本産業衛生学会有機溶剤中毒研究会

後 援：沖縄県医師会、沖縄産業医学研究会、日本産業衛生学会九州地方会

内 容：一般口演

特別講演：「生殖細胞の分化」 安澄文興：琉大
医第二解剖学教授)

特別報告：「沖縄の労働衛生事情—有機溶剤中毒
の事例—」
(知念光雄：沖縄労働基準局安全衛生
課長)

話題提供：「未定」

総 会：

懇 親 会：カナイ笛演奏
バーベキュー

産業保健九州会議 平成11年度全体会議

(日本産業衛生学会 九州地方会 第14回健康管理研究会)

世話人代表：高田 和美

日 程：平成11年12月11日(土)

場 所：福岡看護等研修センター

内 容：「産業保健活動のチームワーク～産業医と産業看護職の業務分担」をテーマとして基調講演とパネルディスカッションを予定

※ 左記は、午後に開催予定ですが、同日午前と同じ場所で九州地方会の産業看護研究会が開かれます。

連 絡 先：トヨタ自動車九州(株)

総務部安全衛生室 田中雅人

TEL 09493(4)2028 FAX 09493(4)2029

本部理事会及び地方会理事会報告

平成11年度第1回日本産業衛生学会理事会議事概要報告

日 時：平成11年6月19日(土) 13:00～17:00

場 所：日本公衆衛生協会ビル 3階会議室

議 事

- 第74回日本産業衛生学会(平成13年)(企画委員長大原啓志教授)が高知市で、4月4日評議員会、5日～7日学会、8日特別研修会の日程で開催されること。
- 名簿作成について、平成11年度中に作成・配布されること。
- 第18期日本学術会議学術研究団体の登録申請について環境保健学・予防医学・地域医学に申請したこと。学会からの科研費審査員の推薦は、理事の投票によること。
- 公認会計士として杉本賢司氏を採用すること。
- 日本産業衛生学会ホームページを開設すること。学会としてのe-mailを登録したこと。
- 事務局体制について、当面、週3回勤務の非常勤1人を加え準2人体制で望むこと。
- 各種委員会・部会の委員の交代・補充を承認したこと。
- 産業衛生技術(仮称)部会準備会を設置すること。
- 名誉会員に村山忍三氏を推薦すること。
- 奨励賞選考委員7名を承認したこと。

自由集会25研究会、特別研修会参加者1602名であったこと

- 第73回日本産業衛生学会(平成12年)の準備状況
- 第9回産業医産業看護全国協議会(平成11年)の準備状況
- 専門医制度委員会より、登録者数(指導医291人、専門医74人、研修登録医312人)と平成11年度専門医試験の日程と指導医資格更新スケジュール
- 会員の状況について、正会員6966人(6月8日現在)
- 協賛・講演依頼9団体に許可
- 70周年記念事業の進捗状況について、単行本を年度内に発行
- 産業医部会より労働安全衛生マネジメントシステムに関する講習会準備中
- 産業看護部会より講習会の計画及び各地方会に連絡網として支部の設置を検討中
- 日本医師会医学賞、日本医師会医学研究助成賞、緑十字賞候補者、健康医科学研究助成の研究テーマの推薦依頼
- ICOHの誘致について佐藤洋理事も担当

報 告

- 第72回日本産業衛生学会の参加者2482名、演題508題、

(報告：田中勇武理事)

地方会理事役割分担決まる

- | | | | |
|------------------|------------|------------------|------------|
| (1) 地方会史編集委員会 | 正責任者 酒井 淳 | (5) 産業衛生技術部会(仮称) | 正責任者 田中 勇武 |
| (2) 地方会ニュース編集委員会 | 正責任者 三角 順一 | | 副責任者 友国 勝磨 |
| | 副責任者 東 敏昭 | (6) 産業医部会 | 正責任者 高木 勝 |
| (3) 地方会研究会 | 正責任者 友国 勝磨 | | 副責任者 東 敏昭 |
| | 副責任者 伊規須英輝 | (7) 産業看護部会 | 正責任者 酒井 淳 |
| | 副責任者 常俊 義三 | | 副責任者 二塚 信 |
| (4) 国際交流 | 正責任者 有泉 誠 | (8) 地域産業保健推進 | 正責任者 松下 敏夫 |
| | 副責任者 竹本泰一郎 | | 副責任者 酒井 淳 |

九州地方会理事会報告

日本産業衛生学会九州地方会

平成10年度事業及び決算報告並びに平成11年度事業計画及び予算

I 平成10年度事業報告

実施年月日 実施事項及び概要

- 1) 平成10年6月12日 第1回理事会(議長:松下敏夫)産業医科大学(北九州市)にて開催(出席9名、委任状4名)、総会議事に同じ。
- 2) 平成10年6月13日 評議員会(議長:田中勇武)産業医科大学にて開催(出席28名、委任状20名)、総会議事に同じ。
- 3) 同 6月13日 総会(議長:大久保利晃)産業医科大学にて開催(出席30名、委任状271名)。
議事 (1) 平成9年度事業・決算報告及び監査報告について
(2) 平成10年度事業計画・予算案について
(3) 平成11年度地方会学会開催について
(4) 第73回日本産業衛生学会の開催について
(5) 平成11~13年度役員改選について
(6) 地方会規則の一部改正について
- 4) 同 6月12~13日 地方会学会(学会長:大久保利晃)産業医科大学にて開催。
特別講演「今様産業保健関連情報活用術」東 敏昭(産業医科大学産業生態科学研究所)。一般演題:28題 参加者数:153名
- 5) 同 6月12日 平成10年度労働者の生涯健康の支援を考える会 高畑料理教室(北九州市)にて開催(代表世話人:福光ミチ子)。テーマ「『人に良い食べもの』をすすめる為に」高畑康子(高畑家料理教室主宰)参加者数:28名
- 6) 同 6月13日 第2回九州地方会選挙管理委員会 産業医科大学にて開催(委員長:三角順一、委員:伊規須英輝、畝 博、福光ミチ子、オブザーバー:松下敏夫、青山公治)。松下会長より4名の委員を委嘱したこと、持ち回り委員会(第1回)により三角順一教授を委員長とし、伊規須英輝教授を事務局担当としたことなどが報告され、選挙の日程ならびに方法について議論し決定した。
- 7) 同 7月30日 九州地方会史編さん会議 福岡にて開催(酒井 淳、二塚 信、馬場快彦、松下敏夫)
- 8) 同 8月26日 地方会ニュース「産衛九州」第4号発行。
- 9) 同 8月27日 役員選挙投票用紙発送 産業医科大学産業生態科学研究所会議室(出席者:三角委員長、伊規須委員、畝委員、福光委員)
- 10) 同 9月25日 役員選挙開票 産業医科大学産業生態科学研究所会議室(出席者:三角委員長、伊規須委員、畝委員、福光委員)
- 11) 同 9月30日 中央選挙管理委員会へ新理事名および新地方会長名を報告(地方会選挙管理委員長:三角順一)
- 12) 同 10月27日 中央選挙管理委員会へ新評議員名簿を提出(地方会選挙管理委員長:三角順一)
- 13) 同 12月26日 第2回理事会(議長:松下敏夫)福岡産業保健推進センター会議室にて開催。
議事 (1) 平成10年度事業・決算の中間報告(案)について
(2) 平成11年度事業計画並びに予算案について
(3) 平成11年度地方会学会の開催について
(4) 第73回日本産業衛生学会開催について
(5) 名誉会員の推薦について
(6) 産業保健技術者(仮称)部会の設置について
(7) 理事役割分担申し送り事項について
- 14) 平成11年1月30日 第13回健康管理研究会 九州エネルギー館ホール(福岡市)にて開催。(代表者:高田和美)
講演1「焼却炉周辺のダイオキシン対策について」田中勇武(産業医科大学産業生態科学研究所所長)、
講演2「生活習慣病の上手な予防法」的場恒孝(久留米大学医学部教授)。参加者数:88名。
- 15) 同 1月30日 産業看護研究会 九州エネルギー館ホール(福岡市)にて開催。(代表者:福光ミチ子)「エンプロロジカル・アプローチ—新たな視点から健康を考えるために—」筒井浩一郎(ヘルスリサーチインターナショナル代表取締役)。参加者数:36名。
- 16) 同 2月28日 「九州地方会史」発行。
- 17) 同 3月31日 地方会ニュース「産衛九州」第5号発行。

II 平成10年度収支決算報告

1. 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
平成9年度繰越金	176,540	176,540	0	
平成10年度交付金	735,600	777,600	42,000	@1200×648人
次期役員選挙費用積立金より	100,060	100,100	40	
雑収入	272	291	19	銀行利息
計	1,012,472	1,054,531	42,059	

2. 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
地方会学会開催費	150,000	150,000	0	
研究会補助金	200,000	150,000	△ 50,000	3件
九州における産衛活動調査費	100,000	100,000	0	別会計
役員選挙事務費	150,000	150,014	14	
連絡通信費	100,000	104,610	4,610	郵便料 97,990 送金料 6,620
消耗品費	16,000	15,362	△ 638	
会議費	60,000	41,200	△ 18,800	
地方会ニュース発行費	230,000	219,120	△ 10,880	4・5号印刷費 83,580 発送費 135,540
予備費	6,472	0	△ 6,472	
計	1,012,472	930,306	△ 82,166	

平成11年度への繰越金 124,225円

◎ 九州における産衛活動調査費積立

<収入の部>

積立額	1,362,335
平成10年度積立	100,000
利息(8/10,2/15,3/31付)	1,268
合 計	1,463,603

<支出の部>

連絡通信費(送金料含)	1,470
「九州地方会史」印刷費	989,100
発送費	70,000
合 計	1,060,570
残 額	403,033

III 各県別会員数(平成10年12月2日概数)

	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿 児 島	沖 縄	合 計	(会費納入済*)
10年度	450	28	30	52	61	22	49	24	716	648
9年度	439	26	27	51	61	21	42	25	692	613
8年度	422	27	25	47	58	22	35	21	657	586

*平成11年3月31日現在

IV 平成11年度事業計画

1. 地方会学会の開催

学会長：上田 厚 熊本大学にて開催

2. 研究会の開催

第14回健康管理研究会

平成11年度産業看護研究会

労働者の生涯健康の支援を考える研究会

有機溶剤中毒研究会

チェックリスト研修会

3. 地方会ニュース「産衛九州」第6・7号の発行

4. 第73回日本産業衛生学会総会準備

5. その他

V 平成11年度予算

1. 収入の部

(単位：円)

科 目	10年度実績	11年度予算
平成10年度繰越金	176,540	124,225
平成11年度交付金(648人)	777,600	972,000
雑収入	291	291
計	—	1,096,516

2. 支出の部

(単位：円)

科 目	10年度実績	11年度予算
地方会学会開催費	150,000	150,000
研究会補助金	150,000	250,000
次期役員選挙費用積み立て	50,000	60,000
連絡通信費	104,610	130,000
消耗品費	15,362	20,000
会議費	41,200	60,000
地方会ニュース発行費	219,120	220,000
予備費	124,225	206,516
計	—	1,096,516

注：11年度に該当する予算項目に限って作成した。

—九州地方会史発刊に寄せて—

若葉の美しい季節となりました

昨日お手紙と九州地方会史と云ふ立派な本をいただきまして有難うございました。拝見致しましたが先生に主人の仕事をもとめていただきこの様な本で紹介していただきましたことをたいへん感謝申し上げます。

死後五十三年覚えていて下さる方も少なくなり淋しく存じて居りましたのに又新しい方々に知っていただけてほんとに有難いことだと存じます。鹿児島に墓参した折り報告したいと思って居ります。

黒田先生のお写真もなつかしく、ご立派で、きびしい方との評判ではございましたがとても暖かい方で主人が東大に学位記をいただきに行きました時私も同道致しましたがわざわざ宿迄お訪ね下さった上銀座の竹葉亭で御馳走迄し

て下さったり、川崎市で空襲に合った時も主人が病弱なのを心配されて毛布を持って来て下さったり随分とお世話になったものだとあらためて今思い浮かべて感謝の念が湧いて居ります。主人は早く他界しましたが、沢山の方々にお世話になり今でも覚えていて下さる方々が居られるとは幸せなことだと思いました。

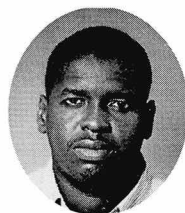
先生には遠路お尋ねいただいたこともありその折は大変失礼致しましたしその後の御無沙汰共々お詫び申し上げます。どうぞお元気で増々の御活躍お祈り申し上げます。

事務局の方々にも宜敷くお伝え下さいませ。

5月22日 川畑モモコ(故 川畑是辰博士夫人)
倉恒先生

外国人会員の声

「すみません」



大分医科大学公衆衛生医学(Ⅱ)教室(JICA研修員)

アボコン・カノン・アルマン

JICAのプライマリー・ヘルス・ケア(PHC)コース研修員である私はこの4月以来、大分医科大学公衆衛生医学(Ⅱ)教室でお世話になっており、三角順一教授を始め皆様にたいへん熱心にご指導いただいています。

研修を通じ、私は、同大学医学部5年生の実習に参加する機会を得ましたが、卒業を前に理論のみで、かつ、ひと

通りの統計学しか教えてもらえない我が国コートジボワールと異なり、本学の学生はコンピュータを用いた統計実習ができるレベルにすでにあることを知りました。

また丹賀診療所見学の機会にも恵まれ、住民1,500人の診療所の医師が、検査室、X線撮影室、エコー、心電図、ファイバー内視鏡等の設備を自由に使用できる状況にあることも知りました。その時は、X線撮影室やエコー設備を備えた最短の保健所まで40km離れた、住民数9,000人を抱える本国の保健センターで医師を務めていた当時、必要な器材がなかったために治療できず一部の病人を返さざるを得なかったことが思い出されました。

医療外の分野では、「日本人は、世界で最も進んだ国民に数えられるにも拘らず、自らの文明、その日本らしさとの見事な調和を保ち続けている。」と書いた我が国のジャーナリストと同じ想いを日本滞在で持ちました。

礼儀正しさと隣人を敬うという美德を含め、自らの伝統、文化をたいせつにしている日本人の姿が心に残ります。それで、年齢、性別、社会的地位を問わず、ものを尋ねるにも、いつの時も腰が低く、「すみません」という言葉が自然に出るのだと思われます。

産業医科大学での研究生活

ハノイ医科大学、ベトナム

レ・チャン・グアン

私は1985年ハノイ医科大学の5年生の時から、産業医学を学んでいます。ベトナムでは研究施設や医学に関する情報が不足しているため、研究は大変制限されたものとならざるを得ません。

1994年、野沢浩先生のご支援により労働科学研究所で学びました。その時、日本の産業医学についての知識を得、産業医科大学で研究が出来ないものかと機会を探していました。VIETNAM CANCER ASSOCIATION はベトナムで年に10万の新たながん患者が、そして5万の死亡者がいると見込んでいます。ベトナムではがん予防は二の次で、がんの疫学の情報もかぎられています。今は吉村先生や研究室の皆様の御指導のもと、がんの疫学、その原理や体系についても大変興味深く研究しています。また職業がんの疫学、感染症および非感染性疾患の疫学も学んでいます。産業医科大学での研究環境はすばらしく、とても進んでいます。図書館では研究分野に関する有益な情報が手に入ります。これは私の国では考えられないことです。臨床疫学教室の皆様からはいつも適切なアドバイスをいただき、毎日助けてもらっています。日本とベトナムは文化的に共通するところがあるので、日本での経験は大変役に立ちます。そして、吉村先生は臨床疫学、特にがんの疫学について、日本とベトナムの双方で実務を援助して下さいます。高い技術を先進国から途上国に伝えることは良い方法です。毎年JICAの産業医学集団研修コースが産業医科大学の産業生態科学研究所で開かれます。これは世界の大学と、そして他の日本の大学と研究成果を交換する良い機会です。

昨年4月に来日し今年の4月から大学院の1年生になりました。来日してからの6か月間、九州大学で日本と日本文化を学び、日本という新しい環境で研究し、生活するため、文部省から奨学金を頂いています。私の研究プログラムを無事達成できるよう、がんばりたいと思っています。

広告を募集しております。御希望の方は、事務局まで御一報下さい。

編集後記

会員の皆様にはすでに御承知の通り、本年度は日本産業衛生学会本部理事長並びに地方会長の任期満了に伴う役員選挙が行われ、本部理事長には近畿地方会から松下産業衛生科学センターの藤木幸夫所長が、九州地方会会長には産業医科大学の大久保利晃副学長が選出され、それぞれ新体制のもとに活動が開始されております。

また、本年4月、九州で4番目の産業保健推進センターが労働福祉事業団により大分に設置され、初代所長には日隈哲男先生が就任されました。御活躍が期待されます。

先の産業衛生学会総会におきまして、長年御活躍頂きました三浦創先生と馬場快彦先生が名誉会員となられましたことをご報告致します。

平成9年3月31日に創刊号を発行して以来、本号で6号となりました。これまでの御協力に感謝致します。当方で、もう3年間編集をお世話させて頂くことになりました。中立、平等、不偏、参加、会員数の増加などをキーワードに、産業衛生資源や、会員の活動の紹介などを目標に編集に心掛けて参りました。これまで同様、各会員の皆様のきいたない御意見と様々な原稿をお寄せ頂きますようお願い申し上げます。

残暑なお厳しき中、忙中有閑の精神で御活躍の程お祈りいたします。

(三角記)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成11年8月31日

編集正責任者：三角 順 一 (大分医科大学)
 編集副責任者：東 敏 昭 (産業医科大学)
 編集委員：青 木 一 雄 (大分医科大学)
 青 山 公 治 (鹿児島大学)
 石 竹 達 也 (久留米大学)
 市 場 正 良 (佐賀医科大学)
 畝 博 (福岡大学)
 大 村 実 (九州大学)
 小 柳 敦 子 (日赤熊本健康管理センター)
 新 城 正 紀 (琉球大学)
 永 田 耕 司 (長崎大学)
 日 笠 理 恵 (福岡県市町村職員共済組合)
 前 原 正 法 (宮崎医科大学)
 宮 北 隆 志 (熊本大学)
 吉 積 宏 治 (産業医科大学)

(五十音順)

〈編集事務局連絡先〉

〒879-5593 大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1-1
 大分医科大学公衆・衛生医学(II)講座
 (担当：青木、近藤)
 TEL (097)586-5742
 FAX (097)586-5749